

平成 30 年度 第 1 回 花巻市博物館協議会会議録

1 開催日時

平成 30 年 7 月 18 日（水）午後 1 時 30 分～午後 3 時

2 開催場所

花巻市博物館 講座体験学習室

3 出席者

(1) 委員 10 名

佐藤由紀夫委員（会長）、浅沼昭男委員（会長職務代理者）、高橋節夫委員、富永秀寿委員、佐藤洋子委員、中島健次委員、畠山義範委員、佐々木さつき委員、平野榮一委員、阿部茂巳委員

(2) 事務局（博物館）6 名

佐藤勝教育長、高橋信雄館長、晴山弘之副館長、照井公道主任主査兼管理係長、小原克人主任主査兼学芸係長、長沢比呂子事務嘱託員

4 議題

(1) 平成 29 年度事業報告について

(2) 平成 30 年度事業計画について

5 議事録 ※発言者が分かるように記載すること

（事務局 高橋館長）

それではここで、会議の成立報告を事務局照井から行います。

（事務局 照井）

会議成立報告（委員全員出席）、会議録の公開について告知

（事務局 晴山）

続きまして、ここで会議に入る前に出席している皆さまの自己紹介を、委員さんの方から先程の順番で自己紹介をお願い出来ればと思います。よろしくお願いいたします。

委員、博物館職員全員自己紹介

それでは、平成 30 年度第 1 回花巻市博物館協議会を開催させていただきたいと思います。初めに、高橋館長からご挨拶させていただきます。

(事務局 高橋館長)

本日は、暑い中ご出席いただきましてありがとうございます。先日、全国博物館長会議に出席してまいりましたが、国の方では大きく来年 ICOM という世界博物館会議と言うのがありますが、それが来年京都で開かれます。日本の博物館を世界にアピールするには丁度良い機会になり、一つ大きな目玉になると思います。

それから 2 つ目が、内閣府に人生 100 年時代構想会議と言うのが、開かれているようで、人生 100 年時代に向けて、博物館がどうあるべきか、これも前にお話ししたことがあります。北名古屋市の博物館が、福祉施設と博物館の連携と言うことで、博学連携で取り組みをしております、認知症予防に非常に博物館が役立つと言う話で、こう言うのが拡大して、人生 100 年時代に向けて博物館がどうあるべきか、これは、100 年だけではなく、実は地域と博物館がどうあるべきか問われてくるところです。こう言う意味で、もう一度博物館をどうとらえていくか、全国博物館長会議でも話題になっておりました。それからもう一つは昨年、小学校の指導要領が新たに改正されて、その中の第 1 章と第 3 章に博物館をどのように活用し、学校がどう連携していくか、これも、当博物館でも、開館当時から博学連携と言うことで、ずっと取り組んでおりますが、また改めて博学連携の在り方を問われていると言う話です。これは国の方の大きな動きですが、実際、今、外国人の観光客を増やすと言う国の政策のなかで、博物館がどうあるべきかと言うようなことで、ここでも入口でしかないのですが、外国人向けの表記をきちんとするとかですね、そういった取り組みもされていますし、博学連携についても色々今後、在り方をさらに深めていきたいと、考えております。委員の皆さま方から様々なご意見を考えながら、より開かれた博物館を目指して努力していきたいと思っておりますので、是非様々なご意見を頂戴したいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(事務局 晴山)

それでは議事に入ります前に、今期初の会議となります、役員を「花巻市管理運営規則第 9 条第 2 項」によりまして会長の、選出をお願いします。よろしくお願いいたします。

(浅沼昭男 委員)

推薦でお願い出来ればと思います。

(事務局 晴山)

はい。どなたにでしょうか。

(浅沼昭男 委員)

それでは引き続き、佐藤由紀夫委員をご推薦申し上げます。

(事務局 晴山)

皆さんよろしいでしょうか。

《拍手》

(事務局 晴山)

ありがとうございました。

会長には佐藤委員にお願いするということで、議長席にお願いを申し上げたいと言うように思います。それから、同条同項に基づきまして、会長が職務代理の会長職務代理者を指名しなければならないということになっておりますので、佐藤会長から指名をお願いしたいと思います。

(佐藤由紀夫 会長)

引き続き浅沼先生に。

(事務局 晴山)

はい、わかりました。それでは会長職務代理者につきましては、浅沼委員さんにとということで、お願いをしたいと思います。それでは、議事に入りますけれども、議事の進行につきましては、管理運営規則の 7 条 2 項におきまして、会長が務めることとなっておりますので、佐藤会長にお願いをしたいと思います。よろしくお願いします。

(佐藤由紀夫 会長)

前期と引き続いて、引き続き会長をさせていただくことになりました、岩手大学の佐藤由紀夫でございます。よろしくお願いします。新たに委員になった方も 3 名ほどいらっしゃるかと思います。もともとこの博物館協議会と言うのは、博物館法第 20 条によって開催・設置されているものでございます。館長の諮問に応じて意見を述べるというのが目的でございます。例えば文化財保護審議会ですと、文化財の指定と言うことをですね、しなければいけない、それについて、ある程度決めなければならない部分がございますけれど、この会はそのような何かを決めなければいけないという会ではなくて、博物館のことについて意見を述べていただく事が大事でございますから、ある意味活発な意見を述べていただくということが、一番大事でございますので、よろしくお願いいたします。では、議事に入ります。議事の 1 が平成 29 年度の事業報告でございますので、事務局からよろしくお願いします。

(事務局 小原)

では、事務局の方から昨年度、平成 29 年度事業報告ということで、ご報告をさせていただきます。よろしくお願いします。大変申し訳ございません、座ったままで報告させていただきます。

きます。よろしくお願いします。お手元の資料で4ページからになります。博物館事業の概要と言うところでございます。一般的に博物館の事業と言うことで4つの事業がございます。これから、ご説明いたしますけれども、順番が違ってまいりますが、資料の収集、集めた資料を集めること、それを調査すること、それが調査研究活動、調査研究活動の結果として明らかになったものを、展示として企画展示・テーマ展示として、皆さんにご披露する、さらには教育普及活動、分かりやすく調査研究を、お知らせする活動、これが教育普及活動と言うことで4つの活動がございます。4ページということですが、18ページ、組織及び職員構成というところを一度ご覧ください。18ページと19ページ、左側が平成29年度昨年度の職員体制、それから19ページの方が今年度平成30年度職員体制となっております。平成29年度のご報告と言うことで18ページの方から、まずご覧いただきたいと思います。一番上に博物館協議会がございます。そして我々の体制がございます。館長以下、管理係、学芸係という形で並んでございます。まず、一通りご説明させていただきます。学芸係の分についてご説明いたします。学芸係長、私、上席主任（学芸員）小原伸博先ほどご挨拶したものでございます。小原伸博が美術工芸担当でございます。この博物館につきましては、花巻の考古・歴史・美術工芸の3項目を扱う博物館です。それぞれの担当が学芸員の職員となっております。本日は都合により出席ご挨拶ができませんでしたが、主事（学芸員）小田桐睦弥、歴史担当となります。それから主事（学芸員）高橋静歩、考古担当となります。主事（学芸員）小田島知恵、歴史並びに教育普及の担当をしております。学芸調査員（非常勤）因幡敬宏、平成29年度をもって退職いたしました。それから、社会教育指導員、菊池恵津子、博学連携並びに教育普及の担当をいただいております。以上、平成29年度の調査体制と言うことになりますので、先にご紹介させていただきます。それでは4ページに戻っていただきまして、順次ご説明をいたしたいと思います。最初に（1）調査研究活動、先ほどもお話ししましたが、当館の学芸員・学芸調査員がそれぞれ個別の研究テーマをもって調査研究活動をおこなっております。また、その調査研究活動につきましては、年度末において調査研究発表会をもうけまして、それぞれの研究の進捗状況並びに、その成果をということで報告をしております。報告をしたものにつきましては、年度末に発行いたします、博物館の研究紀要というかたちで研究紀要を刊行して、報告させていただくということになってございます。まず、分野別のところをご覧ください。先ほどもお話ししましたが、花巻の考古・花巻の歴史・花巻の美術工芸3部門の調査研究活動を行っております。まず、花巻の考古の部分でございますが、高橋静歩が担当しております。岩手県における古墳時代、平安時代における、赤彩土器の研究と言うことでございます。この後、展示室の方をご覧いただくこととなりますかと思いますけれども、常設展示の中で古代展示の部分で赤く塗られた土器がございます。赤彩土器とことで、その研究の研究調査をおこなっております。次に、花巻の歴史、小田桐睦弥が担当しています。一つが盛岡藩領における、火災の研究、江戸時代の享保時代、平成28年度におきましては享保時代の前期、盛岡藩領で発生した火災について、盛岡藩の家老席日記・雑書と言うものがございまして、盛岡歴史文化館所

蔵になっている、盛岡藩の法的な記録文書がございますが、その中から、盛岡藩における火事の記録をまとめております。その発生傾向をまとめて調査報告というかたちでまとめてございます。次に松川家文書の調査、松川家と言うのは花巻市役所から裁判所の前を通りまして、鳥谷崎神社に至る通り立小路と言うところがございます。花巻城、近世の花巻城の歴史に大変な重要に関わる所でございますけれど、その立小路のところに、松川家というところが今も残ってございます。そこに伝えられた文書約 7,000 点、当代の松川家の方から資料をお借りしまして、家屋調査と言うことで、これを進めてございます。あまりにも資料点数が膨大なために、なかなか先に進みませんけれども、着実に調査を進めているところでございます。次に、先ほどもお話ししましたが、因幡敬宏学芸調査員ですが、今、山形大学の方で転勤になりまして、去年までは在籍しておりましたけれども、彼のおこなった研究です。東和町の成島毘沙門堂に伝わる古文書資料の調査を終わっております。東和のふるさと歴史資料館、ただいま休館してございますけれども、こちらも休館中に古文書をいくらかでも整理をして進めて行こうということで、成島毘沙門堂の関係を資料・調査してございます。この地域は江戸時代におきまして、猿ヶ石川での築漁でございます。成島和紙の生産に関する盛岡藩との関係について調査をしてございます。これの研究成果につきまして、研究紀要の第 13 号で、東和ふるさと歴史資料館所蔵成島毘沙門堂資料についてと言うことで、研究紀要にまとめてございます。次に、城郭調査・近世花巻城関連調査研究でございます。南部領の城館についての現地調査、花巻城についての現地調査・文献資料調査を前年度に引き続きましておこなったところでございます。この調査結果につきましては、昨年度テーマ展「花巻城」と言うことで、その成果を一部ご紹介してございます。これは、考古部門を高橋、歴史部門を小田切、因幡が担当調査を行いました。次に、花巻の先人及び近代史調査と言うところでございます。これにつきましては、小田島智恵が主体となって調査をおこなったところです。平成 29 年度におきまして、寄贈を受けた資料が、大量に寄贈を受けたものがございます。斎藤宗次郎、キリスト教の活動家、内村鑑三の弟子にあたる方ですけど、この方が明治・大正・昭和と日記をずっとつけておりまして、その日記の資料であるとか、それに関連した写真資料、花巻の明治時代・大正時代、この方は大正時代まで花巻にいた方なのですが、その当時に日記資料等、1,300 点あまりの調査資料を生かして、子孫の方からこれらの資料をいただきまして、去年段階で 1,352 点の目録を作ったところでございます。次に花巻の美術工芸でございます。ここの館の資料が研究テーマとなっておりますけれど、花巻人形につきまして、美術工芸担当、小原伸博が、大正から昭和の初め頃にかけて、新聞記事に載りました花巻人形に関する記事を、花巻人形の当時の評価であるとか、美術的な価値というものを考察いたしました。次に、江戸時代絵画資料調査、小原伸博が担当しております。一般的に江戸時代に後期に活躍した、花巻の画人ということで、花巻の三画人と言う言い方をしておりますが、小野寺周徳、八重樫豊澤、橋本雪蕉という三人の画人がございます。この内、八重樫豊澤の作品につきまして、当館に所蔵する資料を元にそこに記させた落款、それから印章、ハンコとか、これを元にそれぞれの作画であったり、と言うものを実際に描か

れた年代を、調査して、これを研究紀要としてまとめました。以上、調査研究活動に関する報告となります。

引き続きまして、資料の収集活動というところでございます。寄贈資料並びに、購入資料の2つがございます。最初に寄贈資料でございます。歴史分野・美術工芸分野、二分野にわかれまして資料の寄贈をいただいております。点数的には24件、全部で2,391点の資料を寄贈していただきました。この内、目立っているのが、先ほどお話ししましたが、斎藤宗次郎1,352点、児玉実英氏から寄贈を受けてございます。その他、目立つところといたしましては、花巻人形の寄贈は多数ございました。ここ何年かの傾向といたしまして、花巻人形を寄贈していただく方が非常に多くございます。その他、写真資料とか、美術工芸の掛け軸資料、その他、美術工芸の資料などございます。次に購入資料です。購入につきましては、美術工芸に関するものを3点購入しております。一つは八重樫豊澤、人物屏風、一双ものでございます。それから美術工芸部門、花巻人形 苗代澤家所蔵資料28点。それから美術工芸、台焼 初代杉村勘兵衛作品ほか、57点、でございます。

では、次のページをご覧ください。博物館の事業で一番大きな活動でございます。展示活動事業でございます。展示活動につきましては、まず、常設展示がございます。常設展示に関しましては、花巻の考古、歴史、美術工芸の3部門から近代に至るまでの歴史を展示するというところでございますが、期間展示、企画展示、企画展示室を使った展示がございます。最初に期間展示、1～9ですが、博物館の正面玄関を入られまして、エントランス正面になります。ここで、期間展示とやることでやっております。只今は花巻市の先人ということで、高橋圭三さんをおこなっておりますので、後程ご覧いただければと思いますが、そのスペースを活用して、展示をおこなっているところでございます。期間展示に関しましては、展覧会の本体、企画展示室で行われている展覧会と連動したかたちで行われています。それから今現在、分館となっております、東和ふるさと歴史資料館は休館中ということで、東和の資料を活用して展示をおこなっている、それから、一般的に市民の関心の高いもの、人気があるものをというところで、たとえば、武具・甲冑・刀であるとか、そういったものの展示をおこなっております。あと、前年度に寄贈を受けた資料も、ここで前年度28年度寄贈資料ということで、屏風1双を展示してございます。以上が期間展示でございます。およそ、1か月～2か月くらいのスパンで、展示の入れ替えをおこなっています。

次に、展覧会でございます。最初に、平成29年度おきましては、5つの展覧会をおこなっています。最初に、ご説明いたしますが、テーマ展花巻人形展、これは前年度平成28年度から引き続きおこなっているものでございます。花巻人形展につきましては、例年2月の最初の土日から、桃の節句をはさみまして、5月の連休明けまでの展示期間ということで花巻人形展を開催しています。平成28年度からの引き続きということでございますが、これにつきましては、「花巻人形展・花鳥風月」というふうに題して展覧会をおこないました。特徴といたしましては花巻人形の題材の豊富さが挙げられます。

同じ題材の中でも形状の違いということで、花巻人形ならではの多種多様の表情を見せています。そういった部分を皆さんに見ていただくということで、企画してございます。それを花鳥風月というかたちで展示構成を組みまして、展示をおこないました。花巻人形の魅力、鳥に関しては今年の干支酉ということで紹介しました。それから、風～時代の風を感じる人形、それから、月～季節を感じる人形ということでの展覧会を開催しております。関連事業といたしまして、展示解説会、人形絵付け体験、人形絵付け体験につきまして、教育普及事業と関わってまいりますけれども、桜町にございます平賀工芸社さんのご協力を得まして、開館以来、今日まで開催しているところでございます。それから篠笛山口流講演会ということで和楽器の演奏を市内で活動されているかたがいらっしゃいまして、発表の場ということで、篠笛山口流をご披露していただきました。ここ何年かの傾向といたしまして、昨年頃からエントランスホールを活用したミュージアムコンサート的なものを、この博物館でも開催するようになりました。

次に企画展「没後 50 年多田等観チベットに捧げた人生と西域への夢」と言うことで展覧会を開催しました。先ほど、畠山委員からも話がございましたけれども、博物館における調査の一つのテーマとなっております。等観じたいは、明治 3 年（1890）に生まれまして、昭和 42 年（1967）に亡くなっております。去年がちょうど没後 50 年ということになりますが、等観さんは皆さんご存知の通り花巻出身の方ではございません。秋田県の秋田市藤崎土崎港の近くの西船寺というお寺さんで生まれた方で、もともとは浄土真宗のお寺に生まれたかたです。縁あってチベットの方へ行くことになり、10 年間修行されてきまして帰ってくる時に、約 2 万 5 千点の資料を持ち帰ったということです。花巻との縁という部分では、戦時中資料を疎開させるために等観さんの弟さんが上町の光徳寺におり、その縁を頼って資料を疎開させて、花巻と等観さんの縁が結ばれたということで、現在この博物館の目玉資料の一つとなっております。その資料につきまして、昨年度ちょうど没後 50 年ということで、国内にあります多田等観氏に関する資料京都の龍谷大学・龍谷ミュージアムそれから、秋田県県立博物館、等の協力を得まして、ここで持っているものだけではなく、日本各地にある等観の資料というものを集めまして、一つ区切りとなる大きな展覧会を設けました。展示構成につきましては、西域の文化中心に、等観の数奇な運命であるとか、等観がいたチベット、この目玉資料となる仏画類、それから等観が世界的なチベット学者になるまでの経緯、等観と花巻の交流について、ご紹介しました。今回の展示に合わせまして、特別出品といたしまして、宮沢賢治の直筆原稿、雁の童子というものがございますが、こちらの直筆原稿も合わせて催事の関連ということで展示をいたしました。今回、8 ページに、関連事業ということで記念講演会「大陸から花巻へ」多田等観をめぐる人々と言うことで、北海道大学高本康子先生に、ご講演をお願いし、沢山の方にご来館いただきました。それから、館長講話、訂正がございます。館長講話ではなく、館長講座です。等観と宮沢賢治と言うことで講座をいたしております。それから、資料を疎開させた、ここで先ほどお話しいたしましたけれども、実際に等観が住んだ円万寺観音堂とのご縁ということで、湯口地区の円万寺神楽のみな

さんの講演をおこなっています。その他、今回の展覧会に合わせて展覧会図録を刊行いたしました。平成 16 年度以降、展覧会を開催しておりますけれども、等観に関する図録とゆうものが発刊できないでございましたけれども、今回の 50 周年を記念して、展覧会図録をまとめ刊行しております。

次にテーマ展「花巻城」ということになります。花巻城につきましては、ここの博物館の大きなテーマの一つとなっているものでございます。市民の関心も高いものの一つでございます。この展示会資料につきましては、ここに収められているもの、それから近世盛岡藩との関わりの部分と言うところで、盛岡歴史文化館に収蔵されております、岩手県指定文化財、それから重要文化財等の文書等の書類などお借りして、実際に盛岡藩の生活から花巻がどう言うかたちで、お城が形つくられていったのか、そういった部分を展示構成いたしました。それで、関連事業でございますが、今回の講演会におきましては、盛岡歴史文化館の室野先生に、「中世稗貫の城館と鳥谷崎城」中世の時代の城館、それから花巻城の前進となります、鳥谷崎城の話をしていただきました。それから、館長講座の 2 回目と言うところで、当館館長の「鳥谷崎城から花巻城へ」室野先生の続きの部分の話をさせていただきました。さらに、展示解説会ということで、9 月 16 日、10 月 8 日、11 月 11 日、三回の展示解説会をおこないました。それから今回の関連で、教育普及事業と関わってまいります、甲冑着用体験「鎧を着てみよう」ということで、当館所蔵の教育普及資料の中から、甲冑並びに火縄銃、模造品になりますが、刀を実際にもって、体験していただくということを、小中学生対象におこなっております。それから、花巻城フォトコンテストということで、実際の今の城館、写真等を撮ってコンテストに応募してもらう、という企画もおこないました。この展覧会につきましても、展覧会図録ということで、「花巻城展」図録を刊行してございます。次に共同企画展「及川全三と岩手のホームスパン」という展覧会をおこなっております。共同企画展自体は市の生涯学習課が主体となっておこなったものです。花巻の先人の顕彰ということで、おこなっております。共同企画展と言うことで、ここ当館と新渡戸記念館、萬鉄五郎記念美術館それから花巻市総合文化財センターの 4 館の合同と言うところで、それぞれテーマをもって、共同企画展をおこなっております。今回、花巻市博が取り組んだのは「及川全三と岩手のホームスパン」、東和町の先人と言うところで、及川全三さんの紹介をいたしました。ホームスパンというものは、羊毛織です。羊毛織ホームスパンというものに、色彩的・美術的な価値を与えたというところを、及川全三さんの功績を顕彰いたしました。及川全三はホームスパンだけではなく成島和紙の染色の取り組みをしたと言うところを一つ付け加えてご紹介をいたしております。さらには民芸運動を提唱した柳宗悦と言う方がいらっしゃいます。この柳宗悦と及川全三、書簡のやり取りが結構されておまして、ここにも沢山の資料が残っておりますので、そういった資料も紹介いたしました。次に、10 ページです。関連事業といたしまして、講演会、岩手県立大学の菊池直子先生に「ホームスパン作家及川全三の足跡をたどって」と言うことで講演をお願いしました。こちらも沢山のお客様にいらしていただきました。それからバスツアーと書いてございますが、これは展

示解説会になります。それぞれの共同でおこなう館をバスで巡って歩く、それぞれの担当学芸員が展覧会の解説をするというところで、解説会をおこなったところでございます。次に、最後になりますが、テーマ展、花巻人形展、今年の2月17日から5月6日までおこなったところでございます。今年はテーマとして「千紫万紅」というテーマに基づいて、おこないました。千紫万紅というのは、さまざまな花があって、色とりどりの花が咲き乱れるさま、です。ほかに展覧会の特徴といたしましては、2015年の4月から約1年にわたりまして、当館の館長が岩手日報紙上に連載した「祈りと遊び、花巻人形の世界」という連載がございました。そこでご紹介した資料を中心に花巻人形の魅力をご紹介しました。関連事業といたしまして、館長講座、ミュージアムコンサート3月3日、ひな祭りコンサートということで、市内で音楽活動されています、チューチューマリンという2組のデュオの方に演奏会をお願いして市内の方々やお母さん方に、沢山ご来場いただきまして、コンサートをおこなったところでございます。それから、展示解説会、花巻人形の絵付け体験につきましては、のちほどご紹介いたしますが、年に2回おこなっております。それから篠笛演奏会は、前年度に引き続き、おこなったところでございます。それからワークショップ的なところで、シルエットクイズ「花巻人形を探そう」それからぬりえをおこなったところでございます。以上、展示活動報告についてお知らせいたしました。それでは、最後になりますが、教育普及活動についてご説明いたします。12ページをご覧ください。教育普及活動について説明いたします。12ページをご覧ください。教育普及活動につきましては、講座、体験学習と2本の柱がございます。まずは、講座につきましてご説明いたします。講座につきましては、館が主催する館長講座、それから各学芸員がおこなう博物館講座、展覧会に応じた専門家によります講座を中心にした博物館講座をおこなっております。また、博物館資料を元に市民が歴史や文化について関心をもった内容につきまして、事前に協議を重ね市民の要望に応えるような出前講座をおこなっております。それから、小学校の総合的な学習ということで、それぞれの学校で取り組むものがございますけれども、その小学校の総合的な学習内容に応じた出前授業を随時おこなっております。講座等の開催実績として、以下の通りとなっております。展覧会関連につきましては、先ほどご説明した通りでございます。エントランスを活用した展示解説会などございます。それから、博物館講座ということで、館長講座年3回開催してございます。それから、古文書講座の初級・中級ということで、計6回です、小田切睦弥が担当してございます。それから博物館講座ということで、多田等観、花巻城、及川全三、先ほど紹介した各専門調査有識者の先生方に講演をお願いしたものでございます。それから出前講座・出前授業、一般対象のもの、それから小学校に関しまして、出前講座・出前授業をおこなっております。まず、市民講座関連ということで、2回ほどおこなっております。各地区の夏休みや冬休みなどには、花巻の歴史、それから花巻の文化のお話を出前でおこなってございます。それから、古文書解説会、それから花巻史談会の皆様方からのご要望に応じて、講座を開催してございます。それから小学校につきましては、出前授業ということでテーマがございまして、各テーマに応じて出前授業をおこなっております。

去年までのメニューといたしまして、「昔の道具」がございます。それから「花巻空襲」ということで、一つこちらの方でもテーマを作って出前授業をおこなっておりますが、29年度におきましては、矢沢地区を対象にということでもないのですが、縄文時代の遺跡についてのお話し、それから29年度から新たに戦国時代の話で、新たなコンテンツをもうけまして、出前メニューを増やしたところでございます。次に13ページ体験学習でございます。体験学習につきましては、市内にある縄文時代、古代の遺跡から発掘された出土品を元にその時代の生活体験であるとか、その時代に作られた勾玉とか琥珀玉であるとか、そういったアクセサリーをすること、それから、花巻の伝統工芸、色々とございますけど、花巻こけし、花巻傘、花巻人形そういった伝統工芸の周知等、これからの継承を目的におこなう製作体験、それから先ほどもお話ししましたが、子供たちに人気の戦国時代の武具を活用した体験学習なども開催してございます。計18回、参加者474名の方に講座にご参加いただきました。次に、3.博物館実習でございます。毎年8月ぐらいのところで実習期間をもうけまして、各大学の方から実習生を受け入れて、博物館実習をおこなっております。昨年度におきましては盛岡大学1名の方が実習をされております。それから、中学生の職場体験学習の受け入れをおこなっております。進路学習の一環として、申し込みのあった市内中学2年生を対象に、職場体験の受け入れをおこないました。受け入れの時期は7月から9月、今日もちょうど花巻中学校の生徒さんたちがきて職場体験をしております。受け入れ中学校といたしましては、去年は西南中・石鳥谷中・花巻北中・南城中・矢沢中の職場体験を受け入れました。それから、先ほど館長のほうからお話しがございました、博学連携の部分でございます。教職員の連絡会議、研修会というものを年に4回もうけてございます。一つが博学連携研究委員会、博学連携の効果的な方策、それから市内の各地域の歴史や文化理解促進のためにバスツアーをもうけまして、先進地を視察する、歴史文化の有名なところを歩く活動をおこなっております。

以上29年度の事業報告と言うことで、ご説明いたしました。長い説明となりました。申訳ございません。

(佐藤由紀夫 会長)

では、ただいまの説明についてご質問ですとか、ご意見がありましたら、よろしく願いいたします。

(阿部茂巳 委員)

4ページの博物館事業の概要というところで、研究紀要が出されたようですが、私たちにはいだけないものでしょうか。是非いただきたい、興味深い内容のようですので、是非ともお願いしたいと思います。

(事務局 晴山)

それでは会議終了後にお渡ししたいと思います。よろしくお願いします。

（佐藤由紀夫 会長）

それ以外はいかがでしょうか？

（阿部茂巳 委員）

まったくお角違いかもしれませんが、12 ページの教育普及活動というところの出前講座・出前授業というのもありますけれど、小学生に出前と言ってわかりますでしょうか。ちょっと違和感があるような気がして、欧米なんかでは音楽会とそうゆうかたちで学校訪問する場合には、アウトリーチというんですけど、翻訳するとよくわからないですけど、なにか、うまい表現がないでしょうか。

（事務局 晴山）

実は、この出前講座という制度でございますけど、市の生涯学習部の主催の事業でございます。市役所全体で取り組んでいるネーミングでやらせていただいているんですけど、担当課には、ご意見があったということでお話しさせていただきたいと思います。

（佐藤由紀夫 会長）

具体的には、どこの博物館も出前講座という言葉年全国的に使っているの、私なんかは違和感ないでございます。アウトリーチと出前講座の違いですけど、アウトリーチも出前講座の一部と考えるところがございますけど、もっともっと博物館にくることが出来ないところを、たとえば県立博物館ですと、盛岡にあっても遠方に行くだけでも2時間、3時間かかるところもありますから、そうしたところに出かけて行って何かをやるのもアウトリーチというふうに言うことが通例で、学校についてはアウトリーチという言葉は日本の博物館となれば使うところは少ないのかなと思っておりますので、どちらかという、出前講座というのは、私が言うのも変ですけど、妥当な表現かなと思っております。

（阿部茂巳 委員）

身近であり堅苦しくない感じは出前で感じますけど、それにしても実に安易だなと。

（佐藤由紀夫 会長）

ご検討いただければ博物館の方ですね。

（阿部茂巳 委員）

出前を悪くいうつもりではありません。軽々しく言うつもりではありませんけれども、ちょっと違和感がありますね。

（佐藤由紀夫 会長）

ありがとうございます。最初に言いましたように、意見を述べていただくことが大事ですので、多くの方々から意見ををお願いします。いかがなものでしょうか？

私から一つ伺いたいことがあります。もしかしたら前にも聞いたのかな、という気もするのですが、古文書講座ですけれども、これ、初級と中級があって、初級のほうをみますと、10人、7人、10人、ということですので、同じメンバーが同じようなかたちで受けているのか、どうかということと、初級がどのくらいの期間やって、中級になって、実際固定メンバーが、ずーっとやっているかたがいらっしゃるのか、どの程度まで読んでいただけるように育っているのか、少し気になるところですけど、いかがなものでしょうか。

（事務局 小原）

実は、この講座につきましては、平成28年度からやっていますが、その時はまったく初級ということでおこなったのですが、実際にはじめてみたところ、初級レベルの方ではなくて、本当に初級のレベルの方とレベルの本当に読みこなせる方が一緒に来てしまって、実際に教える側のほうが、どのレベルに合わせて教えたらいいいのか、わからなく、難しいね、という話になって、初級と中級に分けたという一つの経緯がございます。そこで、実際に初級と中級に分けたところで、やっぱり読める方は中級の方に行かれる方が多いです。尚且つ、もう一回初級からやり直そうという方がやはりダブって受けられる、という部分がございます。実際に初級で受けられている前年度と比べますと、その辺の区分けがハッキリしているかたちにはなっております。で尚、それで今年度はどうしようか、という話になってくるんですけど、今年度に関しては全くの初級のところから実際に読んでいこうと、今年度はまた、最初の初級だけの部分で講座を開こうということにしました。なので、29年度の初級・中級にあっては、わりと読める人、読めない人がハッキリと分かれていたと思います。

（佐藤由紀夫 会長）

今年度の事業の話になってしまいますけど、今年度について分けるのであって、初級で古文書に親しんでもらおうと、言うようなかたちであってですかね。たとえば、こうした講座が中心となって古文書を読める方々、層が広がっていきますと、そういった方々を中心に自主的なサークルが作っていただくようなかたちになればいいなと思っておりますね。他の博物館でもそうなんですけど、こうしたところから自主的なサークルが生まれて、古文書を読む楽しさ、と同時に博物館側としても色々連携しながら、古文書を読むことをですね、していくというようなことも進めているところもありますので、市民と一緒に勉強する、学芸員も一緒に研究するといいますか、そうしたところまで、こうしたところのメンバーが進んでいただければよろしいのかな、と感想を述べた次第です。

（事務局 小原）

いくらでも裾野を広げていかないと、最初にご説明いたしましたが、松川家文書だけでも約7千点。学芸員一人でやっていくのは大変だと、佐藤先生がおっしゃったようなかたちで裾野を広げていくようなかたちを作っていきたいと考えております。

（阿部茂巳 委員）

講座回数が少ないのでは。

（事務局 小原）

そうですね、学芸員の負担を考えながらやっておりますので、この時期、調査活動、展覧会活動を同時にもっておりますので、本当はもっといっぱいやりたいところですが。

（阿部茂巳 委員）

私は東和町でやった時は、もっと人数が多かったなと思って。低調だなと実は思っていたところでした。

（事務局 小原）

是非先生のほうから呼びかけていただいて、ご参加いただけるように。

（阿部茂巳 委員）

もっともっと何とかならないかな。花巻市が低調だという意味ではないんでしょうね。古文書にあんまり興味をもたない、そう言うことじゃない、あれ、史談会のほうでもやっているんですか。

（畠山義範 委員）

史談会では特別…。

（阿部茂巳 委員）

高橋さん、やっていますか。

（畠山義範 委員）

個人ではやっていますけども、史談会そのものとしては古文書はやってないです。

（阿部茂巳 委員）

解説会やっているんだな。ダブってる人いるのかな。やっぱり裾野が、やっぱりこれじゃ低調だな。

（佐藤由紀夫 会長）

他にはいかがでしょうか。

（中島健次 委員）

14 ページの入館関係についてですけど、私、前に入館に一喜一憂する必要はないという発言をしたことがあるんですが、参考までに前年対比とかあったら教えていただきたいと思いますし、最近の傾向とか、それからこの立地条件としては賢治記念館・童話村がセットしたかたちであるんですが、感覚で結構ですけど、あちらの賑わいと、こちらの連動というのは関連性が見受けられるのかどうなのか感覚で聞いてみました。

（事務局 晴山）

次にご説明する予定とした議題となりますので、14 ページ、次の時でもよろしいでしょうか。

（中島健次 委員）

はい、全然かまいません。次のページどこかにあるんですか。

（事務局 晴山副館長）

次のページのところから入館者の部分と石鳥谷歴史民俗資料館入館状況ということでいきますので、お待ちいただいてもよろしいでしょうか。その部分に対して答えになってない部分には補足させていただきます。よろしくお願いします。

（中島健次 委員）

了解いたしました。

（佐藤由紀夫 会長）

他にはよろしいでしょうか？

（富永秀寿 委員）

感想というか、反省というか、12 ページのところにある講座に関わってなんですけど、館長さんの話にあったように、博学連携と言うのがお話しありましたが、学校としての活用が少ないかなと常に感じます。特に中学校ですね、職場体験では、うちの方も使わせていただ

いていて、お世話になっていますが、実は7月12日に戦争体験を語り継ぐ会がありまして、戦争体験について石鳥谷の遺族連合会の方々からお話を聞く授業がありましたが、かなり子供達に温度差があった結果がありまして、ここにも挙げられているとおり、新堀小学校については、花巻空襲について出前講座を受けまして、学習発表会などでも取り組んでいました。私も実際に見に行かせていただいて、非常に素晴らしい発表でした。そういう子達と情報の無い子達と温度差があったかなと感じておりました。併せて単発の授業だけでなく、全体にそういった事前の学習であるとか、こちらから色々と展示物をお借りして、展示があるところまで準備しておけば、子供達に戦争体験という部分もしっかり入っていたのではないかなと考えておりました。私たちが、もっともっと博物館にこう言うのがあるぞ、ってことを十分情報を得たうえで活用していかなければならないと感じて、反省の部分です。

(佐藤由紀夫 会長)

ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。

(佐々木さつき 委員)

13ページの体験学習の花巻人形の絵付け体験についてなんですけど、①②とありますが、絵付けをするものは毎回同じものでしょうか。それとも一年ごとに別のものになるのでしょうか。

(事務局 小原)

基本はその年の干支の人形が基本となります。干支の前後のもの、さらに事前にリクエストがあったものとか、こう言うものがありますか、ということで、あまり手数のかからない子供でも簡単に体験ができるようなものということで、花巻人形の絵付けに関しては①も②も同じ内容でおこなっております。

(佐々木さつき 委員)

ありがとうございます。圧倒的に大人の方の利用が多いので、干支に関してやっていると言うことであれば、そこも周知すると12年で全部そろいますよ、とかアピールがあってもよいのではないかな、と思って聞いてみました。ありがとうございました

(佐藤由紀夫 会長)

他にはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。そうしましたら、引き続いて昨年度の事業の報告で資料の14ページ以下について事務局の方からお願いします。

(事務局 照井)

管理係照井ですが、入館者についてご説明いたします。資料 14 ページをご覧ください。29 年度の月別入館者数、4 月から 3 月までの月ごとの入館者数の集計表です。トータルで 29 年度は 13,944 名の入館となっております。先ほど、ご質問がありました他の年度、たとえば 28 年度でございますけど、トータルで 19,192 名でございます。27 年度が 18,440 名ということで、28 年度少し増えたのですが 29 年度は減りました。5 千人ほど減ったのは何故かというところ考察しましたけれど、28 年度夏にエジソン展という人気のある展示会をおこないまして、多くのお客様にきていただきました。昨年度は多田等観展をおこないました。特にここは宮沢賢治記念館、童話村等の共通券がございまして、共通券で入ってくる観光客のお客さまがどうしても博物館に来た時に、エジソン展だとお子さん連れだと見てみようかとなりますが、多田等観展は避けられてしまいました。そこで入館者が減りました。それからもう一つ、このエリア全体に言えることだと思いますが、各館入館者が減っておりまして、どうしても賢治記念館、童話村という流れの中で博物館は、ここはいいか、ということになっていると思われます。賢治記念館、童話村のお客さんが増えれば、こちらの方にも足が向いていただけるのでございますが、昨年度は特に何かどのような要因があったのか、そこまでは考察はしていませんが、入館者を落としてしまっております。今年は、今のところ昨年度並みの入館者数でございます。ただいまおこなっている「写真家が捉えた昭和のこども展」ですが、こちらは、これが見たいとおい出でになっているお客様が目立つ状況になっております。以上です。

(佐藤由紀夫 会長)

引き続いて事務局の方からお願いします。

(事務局 小原)

では、博物館の分館となっております、石鳥谷歴史民俗資料館の事業について報告いたします。ご承知の通り歴史民俗資料館は、石鳥谷の考古、歴史という部分があります。それから目玉の資料といたしまして、南部杜氏の酒造用具 1,788 点国指定の重要文化財がございます。事業報告をいたします。学校・団体の受け入れというところで、高校生の職場体験学習となっております。それから市内小学校の見学、笹間第一小学校の 3 年生、それから地元石鳥谷小学校の 3 年生の団体の見学がございます。それから資料の貸し出し状況といたしましては、地元、南部杜氏の酒に関するイベントにつきまして、資料館が所蔵しております半纏・前掛け、戦争資料の一つとしてアメリカ人形、それに関するパネル等、貸し出しをおこなっております。次ページに移りますが、石鳥谷歴史民俗資料館入館状況です。年間通しまして、1,261 名ということになっております。続きまして、東和ふるさと歴史資料館は、ただいま休館中でございます。東和ふるさと歴史資料館につきましては、資料を活用しまして個々の博物館でなるべく、東和の資料館にあるものを展示活用して、ご紹介をしていくことに努めております。東和ふるさと歴史資料館についてご説明いたしました。

(事務局 晴山)

東和ふるさと歴史資料館について、新しい委員さんもいらっしゃる事なので、27 年の 4 月から休館ということで、経緯をお話しさせていただきたいと思いますが、東和ふるさと歴史資料館につきましては、昭和 44 年建築、旧東和病院の建物を利用して、平成 9 年に東和ふるさと歴史資料館として開館させていただいたものでございます。ご存知のとおり、建物はコンクリートブロック作りで、コンクリートブロック作りにつきましては、耐用年数が 41 年となっております。現在、49 年位の経過となっておりますということと、皆様方ご存じの通り、耐震昭和 56 年 6 月 1 日からの建築基準法の改正で、新耐震と言われるもの、この新耐震と言われるものは何かといいますと、震度 7 に耐えなければならない、ということの基準がございまして、そうゆう部分と消防法の指摘がございまして、どうゆう指摘かといいますと、火災報知器、誘導灯、自家発電機、等の不備、そして不具合のご指摘をいただいております。その部分を総合的に判断しまして、平成 27 年 4 月から休館ということとしたところでございます。現在、東和ふるさと歴史資料館の資料については、先ほど係長からご説明した通りでございまして、それから今後、東和で新コミュニティセンターの建設予定があることから新施設に是非、資料を展示する予定で、地元の方々ともご協議をさせていただきながら、内部でも検討し、展示案を 29 年度は検討させていただいたということで、補足させていただきたいと思っております。

(佐藤由紀夫 会長)

事務局からはこれで

(事務局 晴山)

以上です。

(佐藤由紀夫 会長)

では、後半部分ですね、入館状況以外のことにつきまして、他にご意見を申し上げます。

(事務局 晴山)

先ほど中島委員さんから、お話しがあった部分、以上でよろしいでしょうか。

(中島健次 委員)

はい、了解いたしました。

(佐藤由紀夫 会長)

いかがでしょうか

(平野榮一 委員)

東和ふるさと歴史資料館についてですが、資料等かなり沢山あると思うのですが、もれ聞いたところによると、噂なのかどうなのかわかりませんが、展示している資料の中には発掘で出てきた物とかありますけれど、地元の方々が寄贈した、昔の農具だったり、そんなのがかなり山になっていますよね。文書資料等でも古い旧家、お蔵から出てきた物で、ふるさと歴史資料館の財産になっている物もあれば、委託みたいなかたちで、預かっている物もあることを聞いているのですが、預けている部分については所有者の方にお返しするのでとりにきてください、みたいなことが進んでいるという話を聞いたことがあるのですが、正式な話ではないのですが、その作業、お返しするものについては、お返しする、寄贈したのは先代で今の人は、代替わりして何が何だか知らないと言う人が結構いるんですよ、その辺の作業状況はどうなっているのかな、というところをお伺いしたいと思っております。

(事務局 小原)

今、委員さんからのご指摘がありましたけれど、寄贈資料につきましては勿論その通り、東和ふるさと歴史資料館所蔵となっております。寄託資料につきましては寄託者の皆さま方一人一人に対しまして、今後東和ふるさと歴史資料館のあり方の中で資料をどのようにされますか。実際この後も継続して寄託されますか。もしくは寄贈されますかって、言うような文章を差し上げまして、ご希望をとっております。今、お話しがありましてとおり、そのまま寄託されるという方もいらっしゃいます。それからやっぱり、前の家のお爺さんさんや、ひっこ爺さんが預けたものなので、俺もわからないから、そのまま差し上げます、と言う方もいらっしゃいます。それから、返してください、と言う方もいらっしゃいました。その方に関しましては、すでに返却の方が終わっておるところでございます。寄託資料につきましては、そういった状況でございます。その中でも大事な物、重要文化財になっている物、文書資料の傷みやすい物につきましては、一部、博物館の収蔵庫に移管しているものもございます。

(佐藤由紀夫 会長)

ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。今のでよろしいでしょうか。

(平野榮一 委員)

気になって、一度見に行っただんですけど、どこにでもあるような古い農具、千歯抜きから始まって、唐箕など、いっぱいありますよね。一部屋、二部屋ぐらいじゃなくて、いっぱいありますね。そんなのは、どうしたら良いものなんだろうね。博物館で引き取るわけにはいかないでしょうし。あのまま、あそこに置いておくことになるんですか。

(事務局 晴山)

今、ご質問があった部分で、私ももちろん現地に行って見てまいりまして、基本的に資料の部分については、今、民族資料の関係の部分については、田瀬振興センターかなと考えている部分もございます。いずれ、東和地域で適切に保管出来るところを考えているところでございます。実は、市の方で公共施設の在り方ということで、今後 40 年間、公共施設の維持について今、各施設のチェック・点検をしているところでございますし、一応、東和ふるさと歴史資料館につきましては、休館ということもございますし、先ほどご説明した通り、耐震、消防法の要件等をクリアしてない部分もございますので、在り方について、今後検討していかなければならないんだらうと考えておりますので、いずれ、あそこの中の部分の資料につきましては、東和地域の部分で保存に適した部分の所に移すことも含め、検討してまいりたいと考えております。

(佐藤由紀夫 会長)

いかがでしょうかほかには 基本的に博物館資料というのは、一度寄贈をうけた物、等々につきましては、購入した物も含め、永久に残すというのが原則でございますから、原則通り適切な状況で保管が出来るように、今後も色々調べていただきたいと思う次第です。そして、なにを寄贈ですね、ある程度その段階で色々考えていかないと、私、東和の収蔵庫までは入ったことないんですけど、展示室しかですね、収集の時になにを切るかっていうのを考えなければいけない部分も、今後あるのかなという気もいたしますね。寄贈を受けたものは永久に残すというのが、博物館の使命でございますので、その辺かなと思っている次第でございます。他にはいかがでしょうか。 よろしいですか。よろしければ一つだけ、入館者が 5 千人程度減少というようなお話でしたけども、28 年度はエジソン展をやっていて、去年は多田等観展の展示が少しひびいているのかなというお話でしたけども、多田等観自身がこの地域の博物館としての花巻市の博物館が主要なテーマとして、今後も取り上げていかなければならないテーマでして、地域の博物館としての役割ということでは、5 千人減ったと、エジソンからこれに替わって 5 千人減ったということはですね、博物館の在り方としては本来の在り方をきちんとおこなっていることですから、私はそんなに気にしなくてもいいのかなというのが正直なところでございます。きっと今年の事業計画のところにも出てくると思うんですけど、昭和のこどもも全国巡回しているやつかなと思うんですけど、でももちろん、それだけではなくて花巻の色んなものを展示しているんですけども、こうした全国的なものを見るということも、市民にとっては大事なことですけども、もう一つは地域の文化財、文化遺産をきちんと理解することも大事ですので、年によってある程度の変動があっても、私はそれほど問題にはならないと考える次第です。

他にはいかがでしょうか。もし、なければこの議題については終了とさせていただきます、議題の 2 の平成 30 年度の事業計画について、ご説明をお願いしたいと思います。

(事務局 小原)

それでは、平成 30 年度花巻市博物館事業計画ということでご説明いたします。展示活動事業と教育普及活動事業に関わる部分でございます。まず、展示活動事業でございます。先ほども 29 年度でございますが、テーマ展花巻人形展「千紫万紅」ということで、前年度からの継続事業ということで、すでに開催終了しております。現在、写真家が捉えた昭和のこども展ということで、日本を代表する 19 名の写真家によります、各時代のこども達の様子を通じてどういった世相だったのか、それから白黒写真の魅力、色々な見方があると思いますが、好評のうちに開催が進んでいるところでございます。関連事業といたしまして、特集展示「昭和の花巻」と言うところで、全国的なものとはまた別に、昭和の花巻にまつわる写真の展示、それから花巻の先人を紹介しております。記念講演会、先週の土曜日でした。「岩手と花巻の昭和」ということで畑中美耶子さん、盛岡歴史文化館の館長さん、IBC アナウンサーであった畑中さんに講演を、畑中さんにつきましては、地元、花巻大迫出身ということでございますが、とても心温まる講演でした。それから今後予定されているものとして、ギャラリートーク展示解説会でございます。今度の日曜日、8 月 12 日 2 回を予定しております。今回の展覧会に付随しまして、様々な学習がございます。「七夕飾り」、「風づくり」こちらの方が終了しております。来たお客様にはひじょうに喜ばれておりました。今度の土曜日に、模型飛行機をとばそう、その後は、「こまをつくって回そう」その後は「プラ版キーホルダー」を作ろうという学習がございます。次にテーマ展「花巻の遺跡」、「昭和のこども」展の後に、「花巻の遺跡」ということで旧石器時代から近世に至るまでの花巻の発掘調査の成果を展示しようという企画でございます。こちらの方は考古担当、高橋静歩が準備中でございます。9 月 15 日から約 2 か月間、11 月 18 日までの展示となっております。関連事業といたしまして、講演会を 2 つ予定しております。今日の新聞にもあがってまいりましたが、世界遺産を目指しております、御所野遺跡、一戸町御所野縄文博物館から、菅野紀子さんの講演をお願いしております。それから城館の建築文化ということで、日本建築学会の中村隼人さんに講演をお願いしております。専門家の講座ということで難しいのかなと思いますが、わかりやすく、楽しく、お話ししていただいておりますので、ぜひ、ご参加していただければと思います。それから、館長講座の 2 回目ということで、「花巻の遺跡」ということで当館館長の講座がございます。ワークショップといたしまして「ミニチュア土器づくり」を予定しております。それからギャラリートーク展示解説会 10 月 13 日に予定しております。それから毎年 12 月におこないます、先ほどもお話ししましたが、共同企画展「ぐるっと花巻再発見」、去年 1350 点あまりの資料の寄贈を受けましたが、先人「斎藤宗次郎」ちょうど今年、没後 50 年になってございます。詳しい調査はこれからになりますけれども、斎藤宗二郎という人物がどういう人物であったのか、皆さんに知っていただけるような展示を目指しております。関連事業といたしまして、記念講演会、同支社女子大学名誉教授、児玉実英先生、本資料の寄贈者でございます。児玉先生と斎藤宗次郎との関係と

というのが、児玉先生の奥様が斎藤宗次郎のお孫さんにあたるということで、こういった膨大な資料をずっと受け継いでこられた、最終的に花巻に寄贈していただいた、ということになります。実際に宗次郎と関わりがあった方のお話しになりますますので、ひじょうに楽しみにしてございますので、是非ご参加いただければと思います。それから、エントランスホールを活用した事業といたしましてクリスマスコンサート、それから展示解説会 2 回ほど予定しておりますが、開催日は、未定でございます。次にテーマ展「花巻人形」展につきましては、詳細には決まっておりません。体験学習並びに、館長講座が決まっております。同じく去年同様ひな祭りコンサートを予定しております。それから同じ期間になります。花巻人形展と同時期間になりますが、花巻を代表する焼き物の一つになります、台焼につきまして、去年、購入した、初代、杉村勘兵衛の作品を大量に買い入れさせていただきましたので台焼について、広く、浅く知っていただく機会になるのかな、ということで展覧会を組みました。関連事業といたしまして、現在の当代の窯元、杉村こうしゅうさんによります、焼物の体験教室などを予定しております。同じく展示解説会がございます。それから教育普及事業ということで、展覧会の関連で館長講座 3 回、6 月 30 日「多田等観と観音山」ということで、こちらは終了しまして、沢山の方にご来館いただきました。それから 9 月 22 日に「花巻の遺跡」展に関連いたしまして、館長講座がございます。それから、「花巻人形」展に関する館長講座にということになってございます。それから、外部講師による専門講座ということで、展示活動と関連するもので、先ほどご紹介した通りでございます。それから先ほど佐藤先生の方からご紹介がありましたけれど、古文書講座ということで「はじめての古文書講座」初級講座とゆう名前をやめて、「はじめての古文書講座」にしてみました。全 5 回を予定しております。当館学芸員、小田桐睦弥が担当いたします。10 月から 12 月までの日曜日各 5 回を予定しております。それから体験学習、全 7 回、こちらは館主催の事業でございます。「勾玉」「琥珀玉」「縄文火おこし」「花巻人形絵付け」ということです。主催になりますので、たとえば子供会が主催してやるとか、各地区でなにかやる場合には、それに応じて体験学習を開催しております。その他、出前講座に対応してまいります。

（佐藤由紀夫 会長）

事務局の説明は以上と言うことで、よろしいですね。それではただいまの説明について、ご質問ですとかご意見をよろしく願います。

（浅沼昭男 委員）

特別展「昭和のこども」、それと同時に花巻にまつわる写真展示、過去に写真展示をしたことがあると記憶していますけど、特に平成が最後に近づいていますので、そうすると、その間に平成が入って、昭和になってきますので、是非、子供達にこの内容を見てもらうような機会があればいいのかな。キャンパスカードの関係もありますのでね、夏休み期間が入ってきますので、その地域に子供会とか、親と一緒に鑑賞できるような機会があればひじょうに

有意義になるのでは、という気がしておりますので、マスコミ等々の開催中ですので、そちらの方をお願いする記事広告でもいいと思いますけど、宣伝する方法をご検討いただければひじょうに展示が生きてくるのではないかなと思います。一つご検討いただければと思います。

（佐藤由紀夫 会長）

他にはいかがでしょうか。

（佐藤洋子 委員）

事業計画の方ですが、やはり、ワークショップとギャラリートークはすべて開催が土日に当たっているのですが、やっぱり一般的に日曜日、土曜日は参加率が高い曜日ということで、こういう計画をしていると思うのですが、今の子供は小学生にしろ、中学生にしろ、土曜日、日曜日はスポーツをやっている子は、ほとんど練習試合や大会などで、こう言う曜日が使われてしまっている現状なので、たまには夏休み期間中であれば、土曜日をさけて別な曜日を取り入れるとか、そういった配慮をしていただければ、いいのではないかと思います。

（佐藤由紀夫 会長）

ご検討いただければ、と言うふうに思います。他にはいかがでしょうか。

特になければ、これで議題の2についてもこれで終了させていただいて、3番目のその他ですけれども、議員の皆さま及び事務局の中から、なにかございますでしょうか。それではこれで議事の一切を終了いたします。事務局の方にお返しいたします。

（事務局 晴山）

佐藤会長、ありがとうございました。それでは4番目にも、その他をもうけております。議事以外のところでも結構でございます。もしございましたなら、頂戴したいと思います。いかがでしょう。よろしいでしょうか。それでは、これをもちまして平成30年度第一回花巻市博物館協議会を終了させていただきたいと思います。本日はありがとうございました。